

## (1) 再び安全・安心に関して

東日本大震災が発生してから8ヶ月となり、被災された3県の皆さんは未だに悪夢から覚めやらぬ日々を過ごさざるをえない状況にあると思います。特に福島第一原発事故以降は全国民挙げて放射能汚染にかかわる話題に酷く敏感になっています。先日のNHKテレビで「放射能汚染・広がる科学不信」が放映されていましたが、国や行政の発する情報は鵜呑みにすることはできないし、隠蔽体質の科学者もまた人々の不信を強ませるだけであり、科学不信というのではなく、専門家たちが権力や権威を前提に処するから正に科学者不信だと断じておきました。

確かに最近東京・世田谷区内で頻発した放射能騒ぎも、自身で調べなければという市民の行動から始まったとのことでしたが、情報を小出しにしたり隠す姿勢が専門家や行政にありすぎるから不信感がより強まるといわれます。判断を人任せに出来ないという市民の持つ生身の感覚は、素人感覚と決め付けてはならないものですし、市民感覚からの提言はもっと大事にされても良いのではないのでしょうか。特に、食との関わりの点ではより神経質にならざるをえない筈です。日常的に食べる食品は我々だけでなく次世代への影響をも懸念されることですし、危険をもたらす原因は複雑に絡み合っていることもあります。

肉牛の検査が行われていますが、安全基準値500ベクレルは今もって「暫定」のままです。科学的な数値として客観的な試論を強調できる「暫定でない基準値」を示してくれなければ安心してもらえないのではないのでしょうか。安心であるか否かは正に十人十色で、同じ情報を得ても、人はそれぞれに異なった感じ方をするだけに、万人が納得する尺度とはなりえないと思います。それだけに感情論や風評が安全とは無関係に一人歩きして、余計な混乱を招く怖れもあるだけに、キメ細かい情報をやさしく解説して欲しいものです。専門家は、難解な言葉・術語を使うから一般人には理解できずに、それだけでも不安を増幅させてしまうことが多いと思います。

(鈴木 重雄 筆)